NPO 日本デザイン協会　宮城県七ヶ浜中学・生徒来訪時レクチャー

開催日時　平成 24 年 5 月 17 日 AM10:00～12:15

開催場所　当協会事務局「港区白金台三丁目 4 番 21 号」

来 訪 者　宮城県七ヶ浜中学3年生（齋藤澄音、鈴木詩織、佐藤恵美子さん）

同伴　校長・鈴木朝二先生、教諭・菅野浩子先生

七ヶ浜中学校の生徒さんと先生とともに

発言順:木村戰太郎（当協会理事）

秋山修治　（当協会理事）

連 健 夫　（社・日本建築家協会デザイン部会長）

佐 野 正　（社・日本インダストリアルデザイナー協会

大倉冨美雄（当協会理事長）

東日本大震災以前から交流があった、宮城県七ヶ浜中学校・生徒「デザイン学習」のお手伝いとして、本年も3人の来訪を受けた。引率には担当の先生・校長先生も同行され、レクチャーに参加して頂いた。 レクチャーの後レストランで昼食を共にし、当協会周辺の環境を含めて経験を深めて頂いた。

以下はレクチャーの全体主旨である。

今、情報化により時代は大きく変わりつつあり、生徒達にとっては親の世代の意見をそのまま受け入れる時ではなくなっている。現代は各自が新しい夢を実現化し易いとてもよい時代だということを説いた。

ただし、コンピューター時代になった今、行為する人間より頭脳で考える「行為」ばかりが進展し、自分の身体で考えることの必要性が一段と増してきていることを伝えた。

以上は意訳であり、実際には座談会形式で、具体例を交え、中学生にも理解頂けるような内容として話された。

以下、各話し手の主旨を簡略に記す。i パッドやパソコンを通し画像を提示しながら話し手が指さすように進められた。

木村：猿人が木の枝の隠れた「働き」に気づいて道具として使い、それを発展させ、自分を強化して人間になった、と云われている。デザイナーに求められる資質は、このような発見する力や問題を解決する柔軟な発想、そして使用者である「ヒト」に興味を持ち、深く知ることである。また、人間の様々な活動や新技術などによって社会は変化し続けている、社会にも興味を持つべきだ。

秋山：デザインを学ぶことにより、視野を広げ問題を発見する力をつけることが出来る、デザインは絶えず時代とともに変化してゆく。この事を理解してデザインを学び、努力をすれば必ずしもデザイナーにならなくても様々な仕事につくことが出来る。美しく快適なモノをつくるのがデザインの基本ではあるもののそれを取りまくいろいろなデザイン関連分野を図解し説明。

連：　家を建てる人（施主）や、建物の利用者が参加する設計のやり方としてコラージュ（ばらばらにした問題メモの貼り付けと議論による編集）を用いた事例を紹介した。設計のプロセスには、技術的なもののみならず、人の意識を捉えることが大切なことを伝えた。

佐野：架構物や電車なども含めた自分の仕事を紹介。アイデアとして廃物樹脂から作った人型の打ち抜きパズル状緩衝材を見せる。ここに、思わぬところにもデザインの眼があることを教えた。別に JIDA として行ってきた東北への震災支援活動の実際（避難所の浴槽が高くて老人が入りにくい。廃材を使った足台を作って大変に受けているなど）を紹介した。

大倉：自分の仕事を通して、結果としてのデザインの分野の広がりを見せた。まとめとして巻頭に記したような「自分で考えること」の重要さでまとめている。　以上